

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590100105		
法人名	社会福祉法人愛誠福祉会		
事業所名	グループホームシルヴァーリージャ		
所在地	宮崎県宮崎市大字加江田4540番地3 (電話) 0985-65-2330		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月30日

## 【情報提供票より】(平成20年11月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 19年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤9人、非常勤2人、常勤換算11人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000	円	その他の経費(月額)	実費	円
敷 金	有(	円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(	円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり	1,300	円		

### (4) 利用者の概要(平成20年11月26日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2		要介護2	2	
要介護3	5		要介護4	0	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均 87.5歳	最低 85歳	最高 92歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山元リハビリテーションクリニック、井手医院、中山歯科		
---------	----------------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青島の中心地からやや北部に位置し、近くには観光地として有名なこどものくにや運動公園があり、景観に恵まれた広い敷地の中にホームは立地している。開設してまだ2年に満たないホームであるが、地域の自治会に加入し、地元の人々との交流や母体施設と連携して職員の研修、防災訓練等に積極的に取り組んでいる。また、家族にはホーム便りを毎月発行して利用者の近況を報告したり、家族会を設置して家族の意見や苦情が出やすい雰囲気作りにも努めている。管理者は介護に対する意識が高く、職員も利用者本位の心のこもったケアを実践している。利用者は全員表情が明るく元気に安心して生活している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、地域自治会への加入やホーム便りの発行、家族会の設置等重要な課題に積極的に取り組み改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員がそれぞれ自己評価を行い、それを基に全員で評価の意義や目的を話し合い、評価を生かした改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の代表や家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や運動会、祭り、ドライブ等について話し合い、出された意見をサービス向上に生かす取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族にはホーム便りを毎月発行し近況を報告している。また、家族会を3か月に1回開催し家族同士の話し合いを行い、その中から出された意見や苦情を運営に反映させる取り組みを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、自治会の行事や祭り、運動会等に積極的に参加し、地元の人々との交流を行っている。また、近隣の小・中学生、地域のボランティアも受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針を理念としている。また、職員間で話し合い、「笑顔が一番・毎日散歩」等の目標を掲げ実践に向け取り組んでいる。	○	地域との交流や自治会行事への参加等、地域密着型サービスの役割を管理者、職員共に充分理解し、すでに実践している。そこで今までの理念を見直し、分かりやすく統一・整理して、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、職員間で話しあい作り上げた目標を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の行事や祭り、運動会等に積極的に参加し、地元の人々との交流を行っている。また、小・中学生、地域のボランティア等も受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員がそれぞれ自己評価を行い、それを基に全員で評価の意義や目的を話し合い理解し、評価を生かした改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表や家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や運動会、祭り、ドライブ等について話し合い、出された意見をサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との行き来は少ないが、地域包括支援センターとは情報交換や相談等が気軽に出来る関係が築かれている。		

**4. 理念を実践するための体制**

7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはホーム便り（シルヴァーリージャ便り）を毎月発行し、近況を詳しく報告している。また、家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1回家族会が開かれ、家族同士の話し合いが行われている。その中から出された意見や苦情等を運営に反映させる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしており、現状ではほとんどない。利用者はなじみの職員に支えられて安心して生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を組んで、法人内・外の研修に積極的に参加させている。ホーム内でもリーダーを中心に自主研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域のグループホームの勉強会等に参加して交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するためには、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームを見学してもらったり、職員が自宅や施設を訪問する等、徐々になじめるよう家族と相談しながら柔軟に対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は一緒に買物に行ったり、食事の準備、洗濯物たたみ等一緒に過ごしながら、利用者から生活の技や言葉づかい等多くのことを学び関係を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりの中で、利用者がどのように暮らしたいか、何をしたいか等アプローチを丁寧に行い意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすために、その思いを介護計画に反映できるようセンター方式を取り入れ、家族や関係者の意見を聞きながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを確実に行い、介護計画は3か月に1回定期的に見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や外泊、家族の宿泊等柔軟に支援している。また、ホームの行事に地域住民を受け入れる体制ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向に沿って、これまでのかかりつけ医を基本に受診や相談ができる体制が築かれている。また、協力医の往診も可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族の意向を確認している。	○	重度化した場合の対応方針について、利用者、家族、かかりつけ医、関係者等と早期から話し合いを行い、関係者全体の方針の統一を図ってほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを損ねるような言葉かけや、態度がないように細心の注意をして対応している。また、記録等を他の人の目に触れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気分や体調、希望に沿って自由に自分のペースで暮らせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回、旬の食材を取りいれた食卓を囲んで、利用者と職員が同じ料理を楽しく食べている。また、食事の準備や後片づけも一緒にしている。	○	利用者と職員が家族の一員のように、毎日同じ料理と一緒に楽しく食べることができないか検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に、毎日入浴が楽しめる体制ができている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯物干し、菜園の草刈、ドライブ、音楽を聴く等利用者の趣味、経験、知恵が発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出来られるよう支援している	近くのスーパーへの買物や海岸の散歩、菜園の野菜取り、また、月に1回は遠出のドライブ、外食も行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。職員は見守り方法を徹底して、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合災害訓練と、毎月地元消防団の協力を得て避難訓練を行っている。また、海岸が近いので津波時の避難訓練を定期的に行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が作成した献立表に基づき調理を行っている。利用者の食事量や水分量は職員がおおよそ把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは明るく、ゆっくりくつろげるようソファーが置かれ、季節の花が飾られている。全体的に家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇、家族の写真、テレビ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。		

※  は、重点項目。